

建設産業の歴史がわかる本

当館の重点収集分野から、主に建設業の歴史を知ることのできる資料をご紹介します。

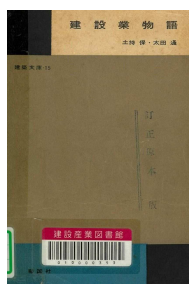
作成：2023年6月



N15（建設史一般）の書架

建設業物語（建築文庫）

土持保・太田通／彰国社／1957年／当館分類 N01（建設業一般）



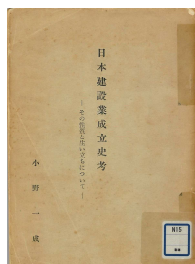
「建設業に関する古い記録や、参考資料を求めることは甚だ困難」昭和32年に刊行された本書はこのような記述から始まる。

建設業は明治以降に近代化されていったが、当時は「請負」という契約形式をとることから、「土木建築請負業」や「請負業」とよばれていた。

昭和24年に建設業法が施行され、現在のように名称も「建設業」とされたが、まだ業種として一般的に理解されているとは言い難く、その実態も把握されていなかった。本書はそのような状況下で、建設業のアウトラインを捉えようと試みている。鉄道請負業協会、日本土木建築請負業者連合会、軍建協力会など、建設関連団体についても書かれている。

日本建設業成立史考 その性質と生い立ちについて

小野一成／私家版／1957年／当館分類 N15（建築史一般）



建設業について史的な観点から考察した最初期の論文。昭和31年に早稲田大学大学院においてまとめられた。当時の建設業の特質や経営のほか、社会的地位についても触れられている。

明治以後 本邦土木と外人

中村孫一（編）／土木学会／1942年／当館分類 N15（建設史一般）

本書は日本における土木系お雇い外国人の功績をまとめたもので、日米開戦間もない昭和17年2月に刊行されている。タイトルや内容から推し量るに、出版するには相当な勇気が必要だったはず。編集に携わった人々の思いと苦労がしのばれる。土木学会が選定した「戦前土木名著100書」の一冊でもある。

日本鉄道請負業史 明治篇

土木工業協会（編）／鉄道建設業協会／1967年／当館分類 G0207（鉄道）, N15（建設史一般）

明治初期に始まった日本各地での鉄道敷設による巨大な建設市場は、近代建設業が萌芽する土壌となった。本書では、各路線の工事状況とそこに活躍した請負業者を詳らかにするとともに、そこで起こった事件や明治期ならではの請負業者の世相まで解説する、建設産業史を語るうえで欠かせない一冊であり、史料価値も極めて高い。

続刊として日本鉄道建設業協会の手により、『大正・昭和（前期）篇』、『昭和（後期）編』が刊行。さらに中部支部からは『中部（平成前期）編』、『中部（平成前期Ⅱ）編』も上梓された。

建設業の昔を語る

飯吉精一（編著）／技報堂／1968年／当館分類 N15（建設史一般）

内容は①座談会の記録、②2編の請負業史（『日本鉄道請負業史 明治篇』、『土木工業協会沿革史』）の要約版、③本邦土木建築年表の3編に分けられている。なかでも座談会は、「日本の土木建築史を語る」（昭和17年）、「大阪の土木建築界を回顧して」（昭和24年）、「建設業の五十年」（昭和27年）のテーマで、当時の斯業の重鎮たちの談話が記録されたもので、オーラルヒストリーとしての価値が高い。

日本土木史

日本土木史編集委員会（編）／土木学会／1965年—／当館分類 N1501（土木史）

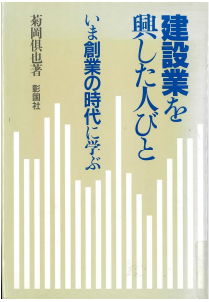
土木学会が、創立50周年記念事業の一環として『日本土木史 大正元年～昭和15年』を刊行したのを端緒として、創立100周年記念の『日本土木史 平成3年～平成22年』まで4巻が刊行されている。その時代の港湾、道路、ダムなどの分野ごとの特筆すべき土木事業、学術、行政、学協会などの動きが概説されている。

日本土木建設業史

土木工業協会・電力建設業協会（編）／技報堂／1971年／当館分類 N1501（土木史）

これまで、建設業の歴史については、土木史や工業史等に含んで記述されるにとどまったが、通史として刊行されたのは本書が初である。建設業の発生から戦後の高度成長期に至るまでの期間について叙述したもので、多くは建設業に属する人々が執筆している。

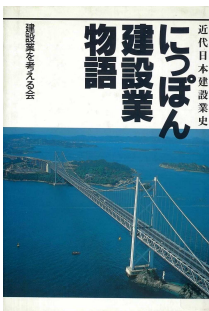
建設業を興した人びと いま創業の時代に学ぶ



菊岡俱也／彰国社／1993年／当館分類 N18 (伝記)

現在のスーパーゼネコンをはじめ、名だたる建設企業を興した創業者のほか、高嶋嘉右衛門や、菅原恒覧、大宮源次郎といった異色の人物も紹介する当館初代館長・故菊岡俱也氏が著した出色の建設企業創業者列伝。2012年には、新装版として復刊もされた。

にっぽん建設業物語 近代日本建設史



建設業を考える会／講談社／1992年／当館分類 N15 (建設史一般)

幕末からの建設業史を、主要な建設プロジェクトについて取り上げながら概観する。明治、大正、昭和と時代の移り変わりの中で建設業が果たした役割が見えてくる。

日本の建設業 その永いあゆみ

荒木睦彦／槇書店／1993年／当館分類 N15 (建設史一般)

古代から江戸期の建設組織、明治期の近代建設業の発生、戦前・戦後、高度経済成長期など、建設業が歩んだ道程が時代ごとにまとめられている。

歴史物語「建設五社」



砂川幸雄 (編著)／相模書房／1995年／当館分類 N15 (建設史一般)

大手建設企業5社について、明治から昭和の戦前期まで、各企業がどのようにしてそれぞれの地位を築いていったか、何がその企業を業界において優位にしたのかを読みやすい物語として綴っている。

日本のゼネコン その歴史といま



岩下秀男／日刊建設工業新聞社／1997年／当館分類 N02 (総合工事業)

古代よりみられる「請負」という行為の始まりと変遷、そしてその中で近代以降に「ゼネコン」が現れた経緯と発展について論じている。

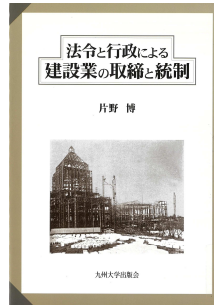
建設業団体史 近代化への長い道のり



建設人社 (編)／建設人社／1997年／当館分類 N17 (団体史)

明治17年の土工組合の発足から、平成初年までの業界団体史の変遷を一読できる良書。このような書籍は他に出版されておらず、業界団体のおおまかな流れを把握するためには最適な資料といえる。巻末の団体変遷年表も役に立つ。

法令と行政による建設業の取締と統制



片野博／九州大学出版会／2009年／当館分類 N15 (建築史一般)

戦前から戦後までの建設業の社会的地位と行政上の取扱いの流れを追う。特に4章の「企業統制と建設業の再編」では、本書の中でも大部を占めており、これまで杳として知りえなかった戦時体制下における建設業統制の本質が解明されている。本書の執筆にあたっては、当館の所蔵資料を存分に活用していただいたことも付記しておきたい。

土木映画の百年 「土木技術映像」100特選ガイド



土木学会・土木技術映像委員会 (編)／言視舎／2014年／当館分類 N1501 (土木史)

土木の記録映像から100本を厳選して解説する、土木学会百周年記念事業の一環として編まれた本邦初の土木記録映画ガイドブック。

紹介されているのは1950年の「復刻版 北上川」から2013年の「地下岩盤に築く」まで。1作品1ページの簡単な内容紹介の体裁なので、気軽に読むことができ、東京湾アクララインやベイブリッジ、つくばエクスプレスなど私たちがよく知っている土木構造物の建設映像も紹介されている。巻末には1945年以前に制作された作品の一覧表も収録。

当館ホームページより
蔵書検索をご利用ください。

建造物の名称や人名など、
キーワードでも検索が可能です。



建設産業図書館HP